



秋田県立 栗田支援学校 教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

- (1) 昨年度、本校は創立30周年を迎えた。児童生徒数238名、その内、高等部生徒数122名で約半数を占める。生徒増や障害の多様化に対し、学習グループの工夫等で対応している。生徒数増加の傾向は落ち着きつつある。第二校舎や小学部棟の改築を含め、校舎改築構想委員会（特別委員会）で検討を始めた。
- (2) 高等部に職業科（環境・福祉科）が設置され8年目に入った。食堂（喫茶）、外部清掃、雪寄せボランティア等の地域学習を通じて地域の理解は深まってきた。昨年度、教育課程の見直しを図り、2・3年次は「飲食提供」「清掃」「福祉」のコース別学習の実践的な学習、1年次は各コースの基礎・基本の学習を行うようにした。さらに、社会参加と職業的自立を目指し、企業や関係機関と連携した職業教育の拡充を図る必要がある。
- (3) 新屋地区、近隣町内の住民や大森山動物園、公立美術大学等の地域で行う学習を昨年度から「地域学習」と位置付け、今年度は、地域学習推進委員会を立ち上げ、組織的に推し進めている。
- (4) センターの機能として障害幼児を対象とした幼児支援（キッズルーム）を開設し9年目に入った。さらに、県央地区高等学校特別支援隊事務局が置かれ3年目になる。活用の少ない高等学校に積極的に訪問する予定である。教育専門監と地域支援部員を中心に小・中学校、高等学校等からの要請に応じている。
- (5) 本校に設置されている寄宿舎の機能や教育力を生かした在校生支援等、寄宿舎設置校として活用ができるよう、体験入舎4種〔教育相談、生活体験、職業生活、入舎前提〕と、舎生対象の生活実習3種〔自立生活、社会生活、家庭生活〕を行えるよう工夫した。
- (6) 部活動入部者が増えている。体力・精神力、人と関わる力の向上に果たす部活動の役割は大きい。指導体制を工夫しながら取り組んでいる特総体やカップ杯、様々な作品展への応募等、年々成果が結果として表れるようになってきている。
- (7) 本校は職員が166名、5つの職員室がある大規模校である。教職員の他学部への関心が薄れることのないよう配慮しつつ、一貫した指導、大規模校だからできることを積極的に推進していく学校運営が求められる。

_____は昨年度から変更した部分

II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

目指す児童生徒の姿

- | | |
|-----------------------|------------|
| ○心身ともに健康でたくましい児童生徒 | 〈じょうぶな子ども〉 |
| ○明るく素直な心でみんなと助け合う児童生徒 | 〈あかるい子ども〉 |
| ○自分の力で最後までやりぬく児童生徒 | 〈がんばる子ども〉 |

基本方針

児童生徒の人権を尊重し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育内容を創造し、児童生徒が能力を最大限に発揮できる教育を行う。

- 1 地域交流や地域資源を活用した特色ある学校づくりをとおして、児童生徒の社会性と思いやりの心を育成する。
- 2 地域校・園や関係機関等と連携し、地域における特別支援教育に関する理解促進とセンター的機能を果たす。

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

目標 1 一人一人の自立と社会参加を目指した小・中・高一貫性のある教育課程の編成

- 児童生徒の社会性、礼儀と思いやり、規範意識の育成
- 規則正しい生活の定着と健康の維持
- 地域学習の拡充と活動内容の工夫
- 実践的な職業教育の拡充

各教科、各教科等を合わせた指導、各段階での学習習慣、健康・体力の増進、高等部普通科一部コース制、高等部職業科専門教科による三コース別学習、生徒指導、進路指導

目標 2 地域の特性を生かし、地域に貢献する魅力ある教育活動の創造

- 新屋地域の事業所や行事、催し物などへの参加と実施継続、発展
- 地域の物的、人的資源を取り入れた学習活動を展開
- 学校周辺地域や地域住民への貢献活動

花のプランターの設置、近隣公園・道路等の環境美化、生活単元学習、「Café くりた」出店、象のえさづくり・花壇整備及び管理（大森山動物園）、地域学校展、近郊住居の除雪作業、黒松の植栽、高等学校産業教育フェア全国大会への参画、ねりんピックへの協力

目標 3 希望に応じた進路実現及び一般就労を目指す生徒の就職率100%の実現

- 作業学習の充実強化（作業学習製品の品質向上、用途の改善と受注開拓）
- 各実習の指導内容、方法の見直し、改善
- 教科「職業」の指導内容の検討
- 職業科の実績継続と活動計画の見直し
- 実習先・就職先の職域を拡充開拓

中学部作業学習（作業内容）、高等部作業学習製品の改善と新製品開発
校外での実践的な作業学習、進路決定に向けた校内実習・現場実習の充実

目標 4 共に育ち合うことを目指した、地域の学校との交流及び共同学習の実施

- 日常の学習活動を通じた交流活動、共同活動の継続と発展
- 地域の資源を活用した共同活動の継続と発展
- 実践的な職業教育に関わる共同学習の実施

生活単元学習、浜田小、日新小、秋田西中、秋田公立美術大学高等学院、新屋高等学校、秋田工業高等学校、高等学校産業教育フェア参加、埋蔵文化財センター

目標 5 社会参加と自立への個々のニーズに応える寄宿舎運営

- 生活技能の向上：洗濯、清掃、衣服等の整理、自力帰省帰舎、目的別生活実習
- 集団生活力の向上：共同活動、自治会、催し物企画、運営、交流活動

目標 6 県央、秋田地区におけるセンター的機能の充実

- 幼保、小・中学校、高等学校への支援：体制、情報提供、研修
- 幼児支援「くりたキッズルーム」の継続と関係機関との連携

目標 7 体力の向上と余暇活動の充実を目指した活動の推進

- 部活動の充実：バスケットボール、サッカー、美術
- 指導の充実と積極的な大会参加

平成29年度 教育プランに係る具体的実践事項

目標1 一人一人の自立と社会参加を目指した小・中・高一貫性のある教育課程の編成

- 児童生徒の社会性、礼儀と思いやり、規範意識の育成
- 規則正しい生活の定着と健康の維持
- 地域学習の拡充と活動内容の工夫
- 実践的な職業教育の拡充

各教科、各教科等を合わせた指導、各段階での学習習慣、健康・体力の増進、高等部普通科一部コース制、高等部職業科専門教科による三コース別学習、生徒指導、進路指導

- 小学部：人と関わる楽しさや興味・関心の拡充（1・2年生）及び挑戦する気持ちと前向きに取り組む態度の育成（3～6年生）
- 中学部：自他のよさに気付き互いを認め合う活動の実施と定着
- 高普科：社会人を意識した礼儀、マナー、思いやり等の定着並びに生活リズムの形成
- 高職科：生徒会（自治会）組織を中心とした生徒主体の活動の実施と発展
- 教務部：個別の指導計画の目標及び手立ての妥当性検討、整合性に係る職員研修会の実施
- 学部共通：教育課程の改善と教育内容の充実
[各学部会での検討と教育課程検討委員会、研究と連動した授業（作業・生単・遊び）の質の向上]
- 研究部：授業者実践研修の計画的な実施と協議成果の共有
- 生徒指導：迅速な問題行動対応と未然防止に向けた関係機関との連携強化
[たより発行、生徒指導会議・実践研修等の開催、日常の生活指導]
- 進路指導：現場実習評価票（県央統一様式）のデータベースを活用した職員進路研修の実施
- 情報教育：ICT機器の授業での活用の仕方や情報モラルの向上のための職員研修の実施
- 健康・安全：肥満傾向児童生徒への指導資料の配付、年2回の健康指導、栄養士による食事指導
[肥満防止カレンダー・通信、食事調べ、健康講話、希望者への面談]
：テーマを明確にしたレシピコンテストの実施と入賞メニューの給食への活用
学習活動の一環とした生徒による食堂清掃の実施
[マイレシピ募集（年2回）、毎日の配膳活動、食堂清掃（週2回）]

目標2 地域の特性を生かし、地域に貢献する魅力ある教育活動の創造

- 新屋地域の事業所や行事、催し物などへの参加と実施継続、発展
- 地域の物的、人的資源を取り入れた学習活動の展開
- 学校周辺地域や地域住民への貢献活動

花のプランターの設置、近隣公園・道路等の環境美化、生活単元学習、「Caféくりた」出店、象のえさづくり・花壇整備及び管理（大森山動物園）、地域学校展、近郊住居の除雪作業、黒松の植栽、高等学校産業教育フェア全国大会への参画、ねんりんピックへの協力

- 小学部：新屋地域を中心とした校外活動の拡充と社会性の育成
- 中学部：地域学習から発展させた地域貢献活動（町内会等との清掃活動等）の実施と拡充
- 高普科：大森山動物園の花壇整備、栗田神社の清掃、地域商店街・公共施設への花のプランター設置の継続と拡充
- 高職科：「ランチくりた」の地域行事出店、コース学習における外部清掃と高齢者施設・保育所等での壁面装飾やレクリエーション活動の継続と拡充
- 総務部：学校行事での学校支援ボランティアと高校生ボランティアの活用。新屋地域や児童生徒の居住地で地域学校展の実施。栗田フェアの実施。
- 地域学習：新たな栗田の伝統・継続活動としての黒松の植栽、地域資源やイベントに関する情報提供、地域学習の記録の掲示及び取りまとめ
- 寄宿舎：下校後の時間を利用した活動の実施
[秋田公立美術大学との制作活動等（年5回）、新屋北新町町内会との栗田町街区公園の花壇整備（年2回）、近隣道路・栗田町街区公園のごみ拾い（年2回）]

目標3 希望に応じた進路実現及び一般就労を目指す生徒の就職率100%の実現

- 作業学習の充実強化（作業学習製品の品質向上、用途の改善と受注開拓）
- 各実習の指導内容、方法の見直し、改善
- 職業科の実績継続と活動計画の見直し
- 教科「職業」の指導内容の検討
- 実習先・就職先の職域を拡充開拓

中学部作業学習（作業内容）、高等部作業学習製品の改善と新製品開発、校外での実践的な作業学習、進路決定に向けた校内実習・現場実習の充実

小学部：身辺処理力の向上と健康的な生活習慣の形成、自ら取り組む気持ちの育成
中学部：生活する力の一つとして捉えた作業学習を通じた働く力の基礎の育成
高普科：一部コース制のねらいを明確にした作業学習の実施と定着
高職科：1年次での基礎・基本学習と2年次からのコース別学習の実施と定着
進路指導：進路希望、適性に応じた新規職場実習先の開拓及び進路優先の職場実習実施

目標4 共に育ち合うことを目指した、地域の学校との交流及び共同学習の実施

- 日常の学習活動を通じた交流活動、共同活動の継続と発展
- 地域の資源を活用した共同活動の継続と発展
- 実践的な職業教育に関わる共同学習の実施

[生活単元学習、浜田小、日新小、秋田西中、秋田公立美術大学高等学院、新屋高等学校、秋田工業高等学校、高等学校産業教育フェア参加、埋蔵文化財センター]

小学部：低学年を中心とした居住地校交流の推進と、大森山動物園の象のえさ作り（浜田小学校）、交流相撲大会（地域の特別支援学級）、花のプレゼントをとおした交流（日新・旭南小学校）の継続
中学部：秋田公立美術大学や同高等学院生徒との共同制作を通じた交流の継続
高等部：学部全生徒が学習成果を生かす機会として産業教育フェア秋田大会へ参加
地域学習：地域や学校等との交流実施に向けた早めの連絡調整と情報の共有・提供

目標5 社会参加と自立への個々のニーズに応える寄宿舎運営

- 生活技能の向上：洗濯、清掃、衣服等の整理、自力帰省帰舎、目的別生活実習
- 集団生活力の向上：共同活動、自治会、催し物企画、運営、交流活動

寄宿舎：①目的別生活実習の実施と保護者・学部との連携 ②自宅通学生や施設生等の目的別体験入舎の実施 ③生徒の意見を取り入れた地域での活動の実施

目標6 県央、秋田地区におけるセンター的機能の充実

- 幼保、小・中学校、高等学校への支援：体制、情報提供、研修
- 幼児支援「くりたキッズルーム」の継続と関係機関との連携

地域支援：幼児から高校生まで幅広い要請への対応。支援にあたる職員の力量を高めるための情報提供や研修会の実施

図書情報：ICT機器の授業での活用の仕方や情報モラルの向上のための職員研修の実施

給食部：テーマを明確にしたレシピコンテストの実施と入賞メニューの給食への活用、学習活動の一環とした生徒によるご飯等の盛り付けや食堂清掃の実施

目標7 体力の向上と余暇活動の充実を目指した活動の推進

- 部活動の充実：バスケットボール、サッカー、美術
- 陸指導の充実と積極的な大会参加

特活部：積極的な大会参加（運動部）、コンクール・展示会等への積極的な参加・応募（美術部）